

# 未来への遺産

## 山形県 「旧最上橋」



3径間連続アーチの旧最上橋。橋の後方に見えるのが楯山

旧最上橋は、老朽化が進み上流に新たに最上橋が架けられたことからこの名称がつけられています。

最上川に架かる現在の旧最上橋は四代目で、昭和十五年に架けられた橋長九十七・六m、幅員五・五mの三径間連続アーチのコンクリート橋です。三連のリブアーチの曲線や橋脚上の曲線のバルコニーがやさしさと軽やかさを感じさせています。

初代の橋は、明治十六年の完成ですが、それ



橋脚上のバルコニーとリブアーチの曲線が軽やかさを感じさせる

と建ち、かつてここが渡船場だったことをしるしています。江戸時代から両村は経済上のつながりが強く、左沢から山形に行く重要な街道だったことから、橋の重要性が窺えます。

このような歴史を持つ旧最上橋は、平成十五年に土木学会の選奨土木遺産に認定され、また、土木学会の日本の近代土木遺産にも選定されています。

旧最上橋の下を流れる最上川は、ちょうどこのあたりで蛇行し、橋上からは楯山城址(国指

以前は、最上川両岸の中郷村(現在の寒河江市大字中郷)と左沢村(現在の大江町大字左沢)は渡し舟により往来していました。現在、渡船場の面影はありませんが、最上川沿いの遊歩道に「桜町渡船場」の文字が刻まれた石碑がひっそりと建ち、かつてここが渡船場だったことをしるしています。江戸時代から両村は経済上のつながりが強く、左沢から山形に行く重要な街道だったことから、橋の重要性が窺えます。



楯山公園(通称「日本一公園」)からの旧最上橋の眺め。手前のアーチ橋が「旧最上橋」

定史跡)がある楯山が正面に見えます。一方、楯山には「日本一公園(正式名称「楯山公園」)があり、ここには最上川ビューポイントの選定地点があります。そこからは、最上川を挟んで、田園地帯と市街地とのコントラストが景観的秩序を感じさせ、すばらしい眺めを目にすることができま。このような風景の添景となる旧最上橋は、平成二十一年三月に景観重要建造物に指定されました。

花火大会や灯籠流しが旧最上橋の周辺で行われるなど、現在でも地域の人々の生活とのかかわりが深く、将来の世代に引き継いでいきたい地域のシンボリックな橋となっています。

お問い合わせ

山形県土木部管理課県土づくり推進室

TEL 〇二三―六三〇―二五八一